

防衛省

〒162-8801
東京都新宿区市谷本村町5-1
TEL: 03-3268-3111 (代表)

採用情報は
こちらへ



守りたいものに、
一所懸命。



防衛省

Ministry of Defense

2026

防衛省 本省内部部局
国家一般職採用案内

サイバー、宇宙、AIなど新たな課題が次々に生まれ出る激動の時代。70年前の防衛省・自衛隊発足以来育んできた、「わが国を守り抜く」との不変の使命が、まさに今試されている。

この崇高な使命を担うのは、防衛省でそれぞれの役目を誠心誠意果たしている職員一人ひとりに他ならない。

「適者生存」この使命を果たし続けるため、我々は、常に進化し続けなければならない。

安全保障という広大な舞台。時には、時代の変化のスピードに圧倒されることもあるだろう。ただ、ここには、我々に必要な無限の可能性が秘められている。

わが国を守り抜くために、この舞台で何ができるだろうか、何をすべきだろうか。我々は一人ではない。変化を恐れず、挑戦を楽しむことのできる仲間がいる。

あなたの挑戦をお待ちしています。

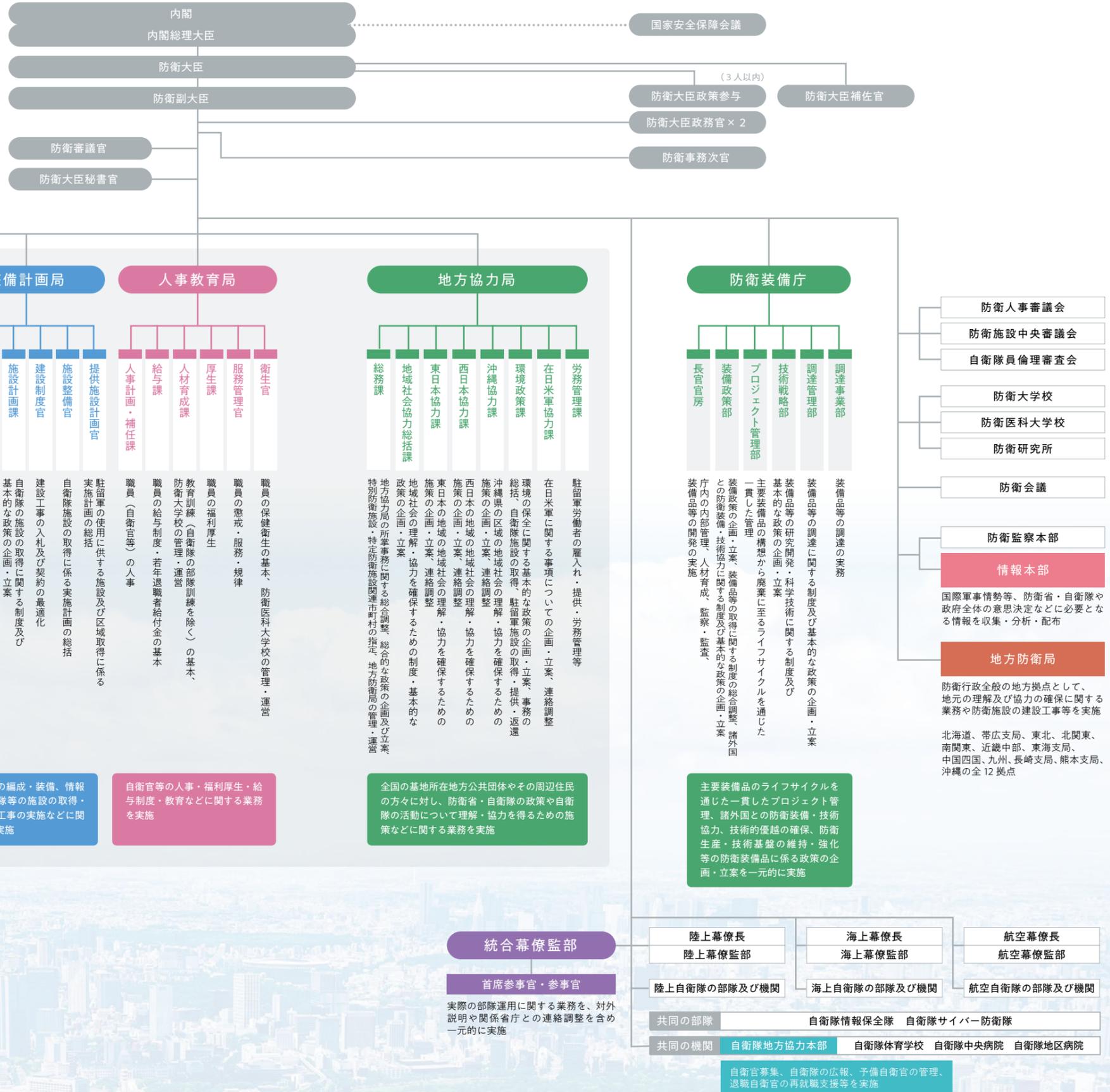
防衛事務次官 増田 和夫



◆ Contents

- 02-03 防衛事務次官メッセージ
- 04-05 組織図
- 06 防衛省・自衛隊のミッション
- 07 本省内部部局の役割
- 08-09 職員紹介：防衛力整備
- 10-11 職員紹介：防衛力整備
- 12-13 職員紹介：地方協力
- 14-15 職員紹介：様々な事態への対応
- 16-17 職員紹介：各国との防衛協力・交流
- 18-19 職員紹介：インテリジェンス
- 20-21 職員紹介：防衛装備行政
- 22 職員紹介：人的基盤
- 23 職員紹介：宇宙・サイバー・電磁波
- 24-25 職員紹介：地方配属
- 26-27 留学
- 28 職員紹介：他省庁への出向
- 29 先輩職員のキャリアパス
- 30-31 職員のキャリアパス
- 32 若手職員の1日
- 33 ワークライフバランスへの取り組み
- 34-35 若手職員に聞いてみた
- 36-37 令和5、6年度 入省者からのメッセージ
- 38-39 説明会や研修

安全保障環境を踏まえ、先進的な防衛政策を立案し、それを部隊編成、基盤整備、人事、地元自治体からの協力確保、諸外国との連携などに反映させていく各部局。これらが有機的に結び付き、相互に連携を取ることで、防衛省は安全保障という大きな責任を果たしています。キャリアステップの過程で様々な部局に身を置き、組織全体を俯瞰できる視野と素養を身に付けます。



防衛省の任務

防衛省・自衛隊はわが国の平和と独立を守り、国の安全を保つことを使命とし、国民の生命・財産とわが国の領土、領海、領空を守り抜くための取り組みはもちろんのこと、国内外での大規模災害や国際平和協力活動を含む様々な事態に対応しています。戦後の防衛政策は大きな転換点を迎え、防衛省・自衛隊の役割は新たなフェーズに入りました。

令和4年12月16日、国家安全保障会議及び閣議において、国家安全保障における基本方針である「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」が決定されました。

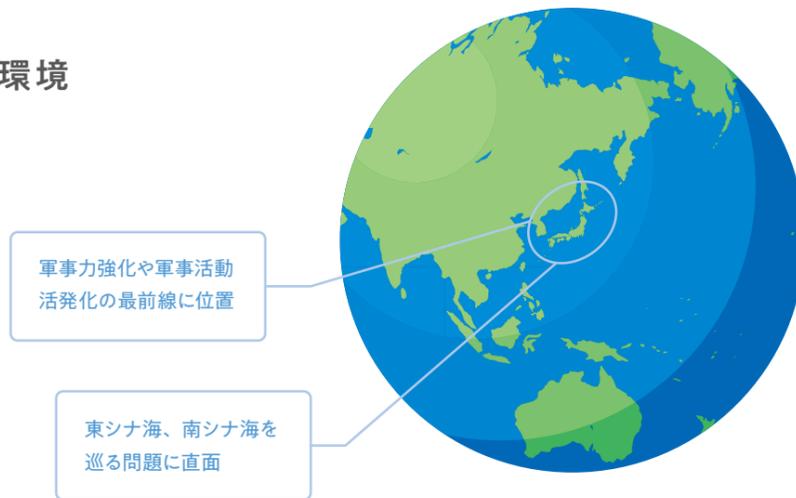
戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境の中で、防衛省・自衛隊は必要な防衛力を抜本的に強化し、国民を守る体制を作り上げていきます。

日本を取り巻く安全保障環境

国際社会が戦後最大の試練の時を迎える中で日本は

わが国周辺の安全保障環境は世界的にも特に厳しく、欧州で起きていることはこの地域でも起こる可能性があります。

「力による一方的な現状変更」を抑止するためには、相手の能力に着目しつつ、新しい戦い方に対応できる防衛力を備えた国家になる必要があります。



3つの防衛目標と実現のためのアプローチ

3つの防衛目標

力による一方的な現状変更を許さない安全保障環境を創出

力による一方的な現状変更やその試みを、同盟国・同志国等と協力・連携して抑止・対処

わが国への侵攻が生起する場合、わが国が主たる責任を持って対処し、同盟国等の支援を受けつつ、阻止・排除



着上陸訓練を行う陸自部隊 (2023年2月)

01

わが国自身の防衛体制の強化

- ▶ わが国の防衛力の抜本的強化
- ▶ 国全体の防衛体制の強化



米空母と航行する海自護衛艦「いせ」 (2024年1月)

02

日米同盟の抑止力と対処力の強化

- ▶ 日米の意思と能力を顕示



日伊共同訓練における日伊編隊飛行 (2023年8月)

03

同志国等との連携の強化

- ▶ 1ヶ国でも多くの国々との連携を強化

防衛目標を実現するためのアプローチ

防衛政策の企画・立案を担当



日本の平和と独立、安全を守り抜く最後の砦として、防衛政策の企画・立案を担当するのが本省内部部局です。

本省内部部局は、自衛隊の業務の基本的事項を担当していて、官房長及び各局長は防衛装備行政を担当する防衛装備庁長官と共に、防衛大臣に対する政策的見地からの補佐、つまり、防衛省の任務達成のため、防衛省の所掌事務が法令に従い、かつ、適切に遂行されるよう、その所掌事務に関する防衛大臣への補佐を行う組織です。

日本周辺には、質・量に優れた軍事力を有する国家が集中し、軍事活動の活発化の傾向が顕著となっています。

こうした状況の中、本省内部部局に採用されると、皆さんには防衛政策の基本的方針を定める戦略文書の作成、

その戦略を実現するための防衛力整備、法律及び予算の策定、日米同盟強化のための様々な調整・交渉など、本省内部部局の主力たる事務官等として、皆さん自身の手でこうした仕事を推し進めることが期待されます。

防衛省・自衛隊には約25万人の職員、隊員が所属していて、全国各地に職場があります。防衛省の役割が大きく拡大する中で、様々な人材が必要とされています。

皆さんは、将来的には、防衛政策の重要な戦力として、日本の行く末を左右する局面において内閣総理大臣や防衛大臣を補佐する立場になります。本省内部部局の一員になることは、皆さんの人生において大いにやりがいをもたらしてくれるでしょう。



各自衛隊との調整業務を担う
国を守るために必要な予算を確保し、



整備計画局防衛計画課
2018年入省

● 入省時から現在までの業務内容

2018年	人事教育局に配属され、自衛官の採用をはじめ衛生や福利厚生など幅広い業務に関わる。人事教育局内の意見や照会の取りまとめ等を担当。
2019年	地方協力局地方調整課（現：西日本協力課）で、航空自衛隊の基地建設に向けて馬毛島（鹿児島県）の土地取得に関する調整、対外説明の調整業務等を担当。
2020年～2021年	埼玉地方協力本部で自衛官の採用を担い、採用説明会の企画等を実施。コロナ禍で制限がある中、同期たちと日々情報交換を行い、ネット広告の配信やウェブ説明会等を行う。自衛官募集に関する理解を得るために、各種団体や自治体に対して説明時に使用する資料作成なども担当。
2022年～2024年	統合幕僚監部首席参事官付に配属。スーダン共和国の情勢悪化に伴い、同国で生活する邦人等の輸送任務に携わる。また、アデン湾を航行中の船舶が海賊の襲撃を受け、海賊対処部隊として派遣された自衛隊の護衛艦とP-3Cが米軍等と連携して情報収集に努めた事案に携わる。総理説明資料の作成や議員説明への随行等を行う。
現在	整備計画局防衛計画課で、装備品の取得や部隊編成を通じた防衛力整備に関わる。日本の防衛という目標を達成するために必要な予算確保に向けて、予算を査定する財務省の質問に対応。国会で予算案承認後は、次年度の予算で購入する物について各自衛隊と調整。

仕事の魅力・やりがい



防衛省の仕事は世間から注目を浴びることが多く、テレビや新聞等の報道でも取り上げられます。そして国防という業務の性質上、スピードをもって処理することを要求される場面があり、非常に短時間で資料作成を要求されることもあります。

こうした一面はありますが、自分がやっている仕事为谁のためになるかは明確であり、意義を感じて業務に臨むことができます。そして周りの同僚や上司がサポートしてくれる環境が整っているので、孤独を感じることはありません。人生で最も多くの時間を費やすであろう仕事のひとつとして選ぶのであれば、この仕事以上に充実感を味わえるものはないと確信しています。



印象に残っているエピソード

今でこそ、自衛官の募集が厳しいことは広く周知されていますが、自衛官の募集を担当する地方協力本部で勤務していた当時は、まだ実感がありませんでした。しかし、駅前で自衛官募集のビラ配りをした際になかなか受け取ってもらえず、世間から理解を得るためにもっと広報に力を入れなければと決意した記憶があります。

また、スーダン共和国で生活する邦人等の輸送任務に携わっていた際には、邦人の生命に関わる案件のため緊張感が続く日々であったところ、45人の邦人等が自衛隊機で無事に日本に到着した場面が中継されているのを見た瞬間、連日連夜の疲れが吹っ飛び安堵したのを覚えています。

今後の目標や抱負



防衛省の業務は自衛官採用、部隊運用、地元調整等と非常に幅広く、まだ経験しきれていない分野が山ほどあります。安全保障のプロフェッショナルとしてふさわしい人材になるためには、どんな領域であっても自信をもって応えられるよう経験を積むことが重要です。今後とも、いろいろな業務に対して積極的に取り組んでいきたいと考えています。



志望者へのメッセージ

ファッションの流行がモード、ストリート、スポーティなど毎年変わるように、防衛省が担うべき役割も時代の変化に合わせて常に変容し続けてきました。激変する世界情勢において、防衛省が新たな視点を保ち続けるためには、皆さんのように多種多様な背景を持つ人材が必要です。この国防という唯一無二の領域に、新たな息吹をもたらしてくれる人を探し求めています。



防衛力の強化に取り組んでいく
大切な人たちの幸せな暮らしを願い、



整備計画局防衛計画課
早期装備化推進室
2018年入省

● 入省時から現在までの業務内容

2018年	大臣官房企画評価課総合政策班に配属され、総合調整業務に従事。政令改正業務も担当し、閣議に提出する資料作成や法制局対応等を行い、周囲のサポートを得ながら無事に公布まで完了。
2019年	自衛隊の活動を法制度面からサポートする防衛政策局運用政策課総括班で総合調整業務に従事。中東地域の平和と日本関係船舶の安全確保のため、情報収集活動を目的とした自衛隊の派遣業務にも関わる。
2020年	地方勤務として、近畿中部防衛局防音対策課移転措置係に配属。防衛行政の最前線である地方防衛局で、防衛施設周辺の住民に対する補償業務を担当し、地元の負担軽減に取り組む。
2021年	大臣官房秘書課人事企画係において、本省内部部局国家一般職採用を担当。採用説明会を通して、防衛省内部部局の魅力が学生に伝えるために全国を飛び回る。
2022年	防衛省における情報政策の司令塔である防衛政策局調査課総括班において、総合調整業務に従事。過去に日本の領空内に飛来した物体を、中国の無人偵察用気球であると防衛省が強く推定した際には、情報分析のとりまとめを行い、総理へ報告する資料も作成。
2024年～現在	整備計画局防衛計画課早期装備化推進室において無人アセット事業を担当。無人アセットは、人的損耗を局限し、長期連続運用ができる利点があり、情報収集・警戒監視をはじめ戦闘支援等の幅広い任務への活用が求められているところ、各幕僚監部の自衛官と協働しながら、実証試験を通じて早期装備化の実現に取り組む。

仕事の魅力・やりがい



入省してからこれまで、自衛隊の活動に関する法整備、情報政策、防衛省職員の採用活動、防衛力整備など幅広い業務に携わってきました。その分、勉強しなければならないことも多いですが、どんな業務も有機的につながっていると感じています。例えば、自衛隊の活動に関する法制度を所掌する課で勤務していた頃に勉強した自衛隊法の知識に助けられることが最近でも多々ありました。現在担当している防衛力整備は今まで携わってきた業務と異なる新しい分野ですが、この経験もまた別の業務に生かすことができると考えると、新しい業務への挑戦にも面白さを感じます。



印象に残っているエピソード

中東地域への自衛隊派遣にあたり、自衛隊がどのような活動を行うことができるのかについて、様々な論点を整理する必要がありました。上司と一緒に、大量の関係法令を読み込んだり、アラビア語の地図とにらめっこしたり、大変でしたがとても充実した時間だったことが印象に残っています。本派遣での防衛省の役割は、ただ自衛隊を派遣することだけではなく、自衛隊派遣を通して中東地域の平和と安定および日本関係船舶の安全を確保することです。眼前の成果ではなく大局的な目的を達成するためには広い視野を持ち、多角的な検討を重ねていかなければならないと改めて思いました。

今後の目標や抱負



係長になると、答弁想定や説明資料を作成したり、自分で折衝を行う等、自ら業務を進めていく機会が更に増えますが、現ポストに着任した当初は、防衛装備品や部隊編成等の知識も乏しく、各幕僚監部の自衛官の方々に助けってもらってばかりでした。自衛隊の運用ニーズを満たす優れた防衛装備品の導入を通じて、防衛力の抜本的強化を図っていくことが必要である中、今後はいただいた知識を基に業務への解像度を高め、目標達成や課題解決に対し、主体的に取り組んでいきたいです。



志望者へのメッセージ

「安全保障」と聞くと、どこか遠い世界の話に思えるかもしれません。

しかし、身近にいる大切な人たちに「理不尽に脅かされることなく、ずっと幸せに暮らしてほしいと願うこと」と「安全保障」は、本質的には似ているのではないかと、私自身は思っています。

いつ何が起こるか分からない国際社会の中において、その願いを実現するために、強い想いをを持った皆さんと一緒に奮闘できることを楽しみにしています。



命を懸けて、命を守る
災害や事故といった危機から、

統合幕僚監部参事官付
災害派遣・国民保護班
2019年入省



● 入省時から現在までの業務内容

2019年	整備計画局情報通信課（現在のサイバー整備課）に配属され、わが国の防衛を果たす上で欠かせない通信インフラ、サイバーセキュリティに関する業務に携わる。総合調整業務に従事し、国会・議員対応の取りまとめ、他課との調整などを担当。
2020年	防衛政策局運用政策課に配属され、自衛隊が任務を行うに際しての法制度面から企画・立案をする業務に関わる。総合調整業務に従事するほか、国民保護措置や災害派遣活動等について自衛隊の果たすべき役割について検討。
2021年～ 2022年	地方勤務の2年間は沖縄防衛局企画部に配属。1年目は移設整備課で、自衛隊や在沖米軍が実施する訓練、基地用地について、住民や地方公共団体への説明など地元調整を担当。2年目は地方調整課に配属され、自衛隊駐屯地の開設や訓練実施にあたっての地元調整、地方協力確保事務として防衛セミナーや自治体への防衛白書の説明などを担当。
2023年～ 現在	本省に戻り、統合幕僚監部参事官付災害派遣・国民保護班に配属。地震や台風、豪雨などの自然災害をはじめ、緊急患者の空輸、鳥インフルエンザや海難、航空機事故など、年間約400件に上る自衛隊の災害派遣活動について、総合調整を実施。

仕事の魅力・やりがい



やりがいという面において、防衛省・自衛隊での業務に勝る仕事はそう多くはないと自信をもって答えることができます。防衛省・自衛隊の責務であるわが国の安全保障の確保は、つまるところ家族、そして自分自身の命を守ることと同義であるからです。無論、これは手放しで守れるものではなく、時にはプライベートをも犠牲にしなければならないこともあります。ある日突然災害が発生し自分自身が被災者になったとしても、向かう先は避難所や家族の元ではなく職場かもしれません。これを差し置いても、「命を懸けて命を守る」ことは、説明の必要がないほど大きな魅力ではないでしょうか。



印象に残っているエピソード

2024年元日に発生した能登半島地震における対応では、発災初期より、総理大臣官邸内の危機管理センターに駆けつけ、文字通り不眠不休で、警察庁や消防庁等の担当者と膝を突き合わせ、現地の被害状況の把握や人命救助活動等の円滑な実施のために必要な調整を行いました。国民の生命・財産を守るため、現場で活動する自衛官と同じように、私たち事務官も命を懸けて戦う責務があることを実感した出来事でした。

今後の目標や抱負



防衛省・自衛隊は、事務官だけでも約2万人、自衛官も合わせれば約25万人にも及びます。当然、業務の方針を巡る意見の相違は起こり得るものですが、わが国の防衛という共通の目的は1ミリたりともぶれないことを忘れずにいたい。今年で入省から7年となりますが、まだまだ若手の心持ちです。真摯に学ぶ心を持ち続けながら、自分自身の視野をさらに広げ、業務に邁進していきたいと考えています。



志望者への
メッセージ

厳しさを増すわが国の安全保障環境において、国家一般職本省内部部局採用の職員が果たすべき役割は広がり続けています。今このパンフレットを読んでいる皆さんも防衛省の門を叩き、その一員として人生を変えてみませんか。皆さんと一緒に働けることを心待ちにしています。



国際社会の平和と安定に貢献する
女性・平和・安全保障(WPS)を推進し、

防衛政策局
インド太平洋地域参事官付
2021年入省



● 入省時から現在までの業務内容

2021年	防衛装備庁装備政策課に配属され、防衛産業基盤の強靱化など装備政策に関わる。国会業務、関係省庁・省内他課との連絡調整業務を担当し、装備庁内全体の業務の割振や調整に従事。企業視察や、防衛産業分野における米国やオーストラリアとの会議などにも携わる。
2022年	防衛政策局国際政策課で、諸外国との防衛協力や交流を推進する業務に関わる。大臣をはじめとするハイレベル交流や実務者交流における支援、国会業務などにおける関係省庁や省内の調整を担当。防衛相会談など報道された案件にも携わる。
2023年	南関東防衛局地方調整課に配属。横須賀や厚木、横浜などの担当地域における自衛隊や米軍等の部隊や基地の運用などについて、地元の理解を得るため地方自治体をはじめとする関係者との調整業務に従事。
2024年～ 現在	防衛政策局インド太平洋地域参事官付において、防衛省でも近年力を入れている分野である女性・平和・安全保障(WPS)を担当。2024年4月に策定された「防衛省 WPS 推進計画」に基づき、各国との協議や日ASEAN WPS 協力プログラムの実施など、WPS 分野における諸外国、機関等との連携をはじめとする多様な取り組みを推進。

仕事の魅力・やりがい



防衛省における仕事の魅力は、スケールの大きさと業務の多様さだと思います。目まぐるしく変化する安全保障情勢を目の前に感じることができるのはもちろん、わが国の安全保障に対して防衛協力・交流、装備、運用、教育など様々な分野からアプローチでき、自らの視野や可能性を広げ続けることができます。私自身、入省前に想像していた以上に多種多様な業務に携わり、5年前の自分とは全く違った新しい視点や考え方を学ぶことができたと思っています。



印象に残っているエピソード

南関東防衛局地方調整課では、調整業務を通して地元住民の方々や関係自治体の思いや考えに直接触れることができ、非常に勉強になりました。当時米軍に新編された部隊の式典にも同席し、とても印象に残る経験になりました。

現在の部署では女性・平和・安全保障(WPS)に関わり、非常にやりがいを感じています。2024年10月には「第1回日ASEAN WPS 協力プロジェクト」を担当しました。ASEAN 諸国や太平洋島嶼国を招聘し、プロジェクトを通じて参加者のWPSに関する理解の深化を図ると共に、課題解決のためのネットワークを構築しました。大変な一面もありましたが、記念すべき第1回目を担当できたことを光栄に思います。

今後の目標や抱負



今までいくつかの部署に配属され、装備政策、防衛協力・交流、地元調整など多様な業務を経験してきました。今後も様々な分野を通じて安全保障に携わりながら、そこで得た経験を生かし、多角的な視点で政策立案に寄与できる職員になりたいと思います。そのために、常に学ぶ姿勢を忘れず、自分にとって新しい分野での業務についても積極的に挑戦していきたいと思っています。



志望者への
メッセージ



皆さんが何気なく過ごしている日常は、世界においては決して当たり前ではありません。そんな厳しい安全保障環境の中でも、日本で平和を当たり前に感じることができるのは、防衛省が果たす役割があってこそです。「わが国の平和と安全を守る」という、唯一無二の使命を担う防衛省で、皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています！



衛星画像を駆使し安全保障と向き合う
わが国最大規模の情報機関で、



情報本部画像・地理部
2015年入省

● 入省時から現在までの業務内容

2015年	大臣官房秘書課に配属され、官房内の5課（文書課、企画評価課、広報課、会計課、監査課）の総務業務の取りまとめ役を担う。
2016年	整備計画局提供施設設計画官付。沖縄県の米軍基地、普天間飛行場を辺野古地域へ移設するための代替施設建設事業のチーム員として、主に国会・報道対応を中心に関係部署との連絡を調整。
2017年～ 2018年	福岡地方協力本部予備自衛官課で、予備自衛官の採用、任期の継続、退職など人事業務や予備自衛官訓練の調整、予備自衛官雇用企業への説明等に從事。
2019年～ 2020年	統合幕僚監部参事官付災害派遣・国民保護班。災害発生時に速やかに出勤して被害状況等を集約し、自衛隊の活動状況等の公表や国会・報道対応、関係機関との調整等に携わる。
2021年～ 2022年	防衛装備庁プロジェクト管理部事業監理官（航空機担当）付。航空自衛官のチームを政策的な観点から補佐する立場として、航空機の開発、取得、維持に関するプロジェクト管理や、国会・報道対応並びに対外説明等に從事。
2023年～ 現在	情報本部画像・地理部で衛星画像の分析・収集等に関わり、企画部門の専門官として、関係部署等と調整をしながら将来的な事業を企画。予算要求時の財務省等への説明や部の重要事業に関する予算を執行。

仕事の魅力・やりがい



時に困難を伴うこともありますが、それを乗り越え、安全保障に貢献できた時の達成感はひとしおです。例えば私の場合、米国製の新しい航空機を自衛隊の基地に配備した時は、大きなやりがいを感じました。

新たに航空機を配備する際には、その意義のみならず機体の安全性や騒音等も含めて伝え、配備先の地域の理解を得る必要があります。しかし、米国政府や機体製造企業に確認した情報を集約し、わかりやすい資料を作って粘り強くかつ丁寧に説明することは、簡単ではありませんでした。安全保障のために必要不可欠な機体を配備するため、自衛官と共に知恵を絞り、粘り強く対応した結果、現地で納入に立ち会えた時は達成感でいっぱいでした。このような経験ができるのも、仕事の魅力のひとつだと感じています。



印象に残っているエピソード

入省7年目に異動して間もない頃、課長から育休に入る総合職の課長補佐の代わりに務めてほしいと打診を受けました。当時の私にとっては、階級が2つほど上の職務を担うこととなり、数多くの政策的な案件を抱えながら日々湧き起こる問題に適切に対処することを求められ、めげそうになる時期もありました。そのような中でも上司や同僚の支えもあって、無事に2年間の業務を全うできたことが印象に残っています。

今後の目標や抱負



わが国の防衛に加え、地域の平和と安定を維持していくためには、同盟国や友好国との連携が不可欠です。高官のみならず、担当者レベルで意思疎通を図る必要があります。通訳を介さず、自分の言葉で直接相手とコミュニケーションをとれることが理想であることは言うまでもありません。その第一歩として、防衛省の留学制度を活用し、海外で研鑽を積んでまいります。



志望者への
メッセージ

厳しい安全保障環境の中、本省内部部局で働く防衛事務官の重要性は日々高まっています。防衛力整備、危機管理、国際協力、インテリジェンスといった幅広い分野で活躍できるチャンスにあふれており、どれも刺激的で知的好奇心を満たせる業務ばかりです。防衛省の一員として、日本の安全保障に貢献してみませんか。



重要な政策的手段である
防衛装備移転を推進

防衛装備庁
装備政策部 国際装備課
装備移転企画班
2019年入省



入省時から現在までの業務内容

- 2019年** 人事教育局人事計画・補任課に配属。人事、採用、福利厚生等の幅広い業務について、国会や大臣会見等の対応を含む総合調整に従事。
- 2020年** 防衛協力・交流を担う防衛政策局国際政策課に配属。防衛大臣を始めとするハイレベルの会談や各種行事への対応、国会や大臣会見等への対応を含む総合調整に従事。
- 2021年～2022年** 沖縄防衛局移設整備課に配属。地元自治体や住民、米軍等と連携しながら、沖縄の更なる発展と平和のため、総合調整と企画立案・実施に従事。
- 2023年～現在** 防衛装備庁国際装備課に配属。防衛装備移転の推進を目指し、官民の垣根を越えて連携しながら、装備移転に向けた問題の解消、より良い制度の構築等、企画立案・実施に従事。

仕事の魅力・やりがい

私は、厳しさを増す安全保障環境の中で、「未来を憂っているだけでなく、自らもわが国と世界のために貢献したい」という思いで防衛省を志望しました。防衛省では、国政という大きな舞台上、常にワクワクと程よい緊張感を感じながら、「ごくわずかながらも国政の一端を担っている。この仕事わが国の防衛に役に立っているんだ」というやりがいをもって働くことが出来るのが、一番の魅力だと思っています。

印象に残っているエピソード

2020年頃、わが国の防衛協力・交流が勢いを増しており、毎日のように国内外で会談や行事が行われていました。しかし、コロナ禍で全てを停止せざるを得なくなり、私はちょうどその頃に国際政策課に着任。制約のある中、VTC等のあらゆる手段を駆使し、よりよい安全保障環境を創り出すべく追求する高官や上司の姿に感銘を受けました。自身もその一端を担っていることが光栄でした。

今後の目標や抱負

バランス感覚に優れた職員でありたいと考えています。防衛省で勤務する中で、「常に絶対的に正しい答え」は存在せず、その時々で正しい判断や行動ができることが大切だと感じるようになりました。様々な関係者の状況や事情を加味し、いつも最適な対応が出来る職員になるべく、日々の仕事ひとつひとつに大切に向き合いたいと考えています。

志望者へのメッセージ

自分は何のためなら頑張れるか？どんな働き方や役割が合っていて、どんな経験をしたのか、興味がある物事にどのように携わりたいか？

大切なのは、自身が心から納得できる仕事に就くことだと思います。私にとっては、それが防衛省でした。

最新装備の導入や工夫で省人化・無人化が進んでも、それらを司るのは結局「人」。「人」が、わが国の防衛の全てを支える基盤です。国防に情熱を持つ皆さんをお待ちしています！

戦闘機の国際共同開発と
AI搭載連携無人機の
実現に挑む

防衛装備庁
プロジェクト管理部事業監理官
(次期戦闘機担当) 付
2019年入省



入省時から現在までの業務内容

- 2019年** 防衛政策局調査課にて、主に東欧の国際情勢、主要国の国防費と気候変動による軍事面への影響を調査。
- 2020年** サイバーや電磁波など新領域を扱う整備計画局情報通信課(現:サイバー整備課)へ。情報通信インフラの検討・整備、防衛装備品の電波承認を担当。
- 2021年～2022年** 沖縄防衛局企画部にて、嘉手納基地に関する諸問題の対応、米軍基地返還のための移設事業に従事。
- 2023年～現在** 防衛装備庁プロジェクト管理部で、英・伊との次期戦闘機の国際共同開発及び有人機と連携する無人機の開発に取り組む。

仕事の魅力・やりがい

防衛省の魅力は、何と言ってもその事業の大きさです。それは予算規模だけでなく、例えば、新たに装備品を開発、配備するためには、国際情勢や日々進歩する科学技術、国際関係にもたらす影響など多角的な視点から事業を検討する必要があります。変わりゆく情勢の中で最適解を考え続けるのは大変なことです。何物にも代えがたい達成感とやりがいを得ています。

印象に残っているエピソード

調査課戦略情報分析室では気候変動関連を担当。当時、米国の英国などの国防省が気候変動の安全保障への影響調査報告書を公表したことを背景に、各調査報告書を分析した会議資料を作成しました。その後、防衛省気候変動タスクフォースが設立され、防衛省気候変動対処戦略を公表。新たな一歩に携われたことを大変うれしく思っています。

今後の目標や抱負

2024年12月、次期戦闘機の国際共同開発をより円滑に進めるため、英国に国際機関であるGIGOが設立されました。装備品共同開発のグローバルスタンダードを学ぶべく、私自身いずれGIGOに出向してみたいと考えています。そのためにも英語能力の向上を図り、国際機関の制度に関する様々な知識を身に付けることが当面の目標です。

志望者へのメッセージ

防衛省・自衛隊は、自衛官も含め約25万人の職員が所属する巨大組織です。そのフィールドは広大で、働き方も千差万別。特定分野のスペシャリストを目指すもよし、全く異なる分野の部署を回ってゼネラリストになるもよし。各々が誇りとやりがいをもって働いています。

防衛省の扉を叩く上で、具体的に何をしたいのか決まっていなくても問題ありません。ここでは、あなたの目指す「防衛事務官」が必ず見つかります。



人事教育局人材育成課
援護企画室
2020年入省

再就職をサポート
次の道へと進む自衛官の
任務を全うして

● 入省時から現在までの業務内容

- 2020年** 大臣官房企画評価課にて、国会や報道の対応、課内の総括業務に従事。
- 2021年** 地方協力局にてイージス・アショア計画の各種調整、情報公開対応、経済安全保障や最先端技術の早期装備化に向けた各種調整業務に従事。
- 2022年～2023年** 九州防衛局企画部にて、自治体等からの表敬・要請対応、新しい駐屯地・基地開設に向けた地方調整業務を担当。
- 2024年～現在** 人事教育局人材育成課にて、退職自衛官への再就職支援施策の企画・立案に必要なデータ収集・分析、システム管理を担当。

仕事の魅力・やりがい

目の前の業務のなかにやりがいを見いだすことが大切だと思います。少しでも携わった業務の成果を後日、新聞やニュースで目に見ると、当たり前暮らしを守ることに関わった貢献できたかなとうれしい気持ちになりますし、同僚や上司からの励ましの言葉はモチベーションにつながります。目標となる先輩が周囲にたくさんいることはここで働く大きな魅力です。

印象に残っているエピソード

調整に数年間要していた駐屯地の建設計画を地元で承認していただき、局面が大きく動いた瞬間を経験しました。住民説明会の開催や自治体担当者との調整などを通して事業に参画、自衛隊が地域に受け入れてもらえるよう、皆さんの懸念をどう解消理解を得るか、省が丸となった事業に力を尽くせたことが強く印象に残っています。

今後の目標や抱負

刻々と変化していく安全保障環境に対応するためにも、幅広い知識を身に付けられるよう、配属先で意欲的に学び続けていきたいです。また、事務官だけでなく自衛官や技官など、様々な立場から国防を支える方々とチームで働いていることを忘れず、日々の情報収集とコミュニケーションを大事にしたいと考えています。

志望者へのメッセージ

防衛省・自衛隊といってもその業務は皆さんが想像するより多岐にわたり、年々その幅が広がり注目度も増しているように思います。どの業務も日本の安全保障に貢献できていると信じて、やりがいを持って働けることが魅力です。また、尊敬できる先輩方・同僚に囲まれ、相談しやすい風通しの良い職場環境であることも、この職業を選んで良かったと感じるポイントです。お互いに成長し合いながら、一緒に頑張りましょう。



整備計画局
サイバー整備課
2021年入省

重大なサイバー攻撃に備え
法改正を進め
自衛隊の任務
を支える

● 入省時から現在までの業務内容

- 2021年** 地方協力局沖縄協力課で、国会や報道の対応、課内の調整などに従事。
- 2022年** 「防衛政策の司令塔」の機能を担う防衛政策課で勤務。社会的関心度の高い案件を扱い、大きなやりがいを感じた。
- 2023年** 南関東防衛局企画部地方調整課で静岡・山梨県を担当。演習場など防衛関係施設の安定的な利用や近隣住民の負担軽減に向け対応。
- 2024年** 整備計画局サイバー整備課で、「能動的サイバー防御」の導入に向けた法律の改正業務に取り組む。

仕事の魅力・やりがい

2022年末策定の国家安全保障戦略では「能動的サイバー防御」の導入が示され、その実現に向けた自衛隊法の改正を担当。サイバーだけでなく幅広い知識が求められるため、勉強に取り組んだことが成長につながりました。携わった仕事が条文となり、その条文を根拠に自衛隊が活動。スケールの大きな仕事に関われることは、本省内部部局で働く最大の魅力です。

印象に残っているエピソード

2023年2月に日本の領空で気球型の飛行物体が確認され、防衛省は「中国の無人偵察用気球であると強く推定される」と公表しました。当時、私は防衛政策課でこの事案公表の取りまとめを担当し、情報分析、運用、法解釈など多岐にわたる論点を総合的に検討しました。安全保障政策の奥深さを知るきっかけになった経験です。

今後の目標や抱負

防衛省や自衛隊の任務を一言でいうと「わが国の防衛」です。その実現のためには、部隊運用、インテリジェンス、法解釈、地元調整など様々な分野から多角的に検討する必要があります。その中で誰にも負けない自分の得意分野を見つけ、かけがえのない「人財」になりたいと考えています。

志望者へのメッセージ

ドラマや映画で描かれるような場面よりも、実際には地道な調整業務の方が多いですが、こうして積み上げた努力が、「国防」という大きなミッションにつながっています。自分の仕事が巡り巡って、最終的には日本の国益になる。そこに誇りとやりがいを感じながら、日々職務に臨んでいます。他の企業や役所では絶対に経験できない機会も多くありますので、少しでも興味があれば気軽に説明会などに足を運んでみてください。

住民の方々の理解を促進し、
航空自衛隊と地元を
つなぐパイプ役



九州防衛局企画部地方調整課
基地対策室
2022年入省



現在の仕事内容

防衛省を志望したのは安全保障に対する関心が強くなったからです。九州防衛局は、防衛省の地方出先機関として、自衛隊在日米軍と地元をつなぐパイプ役。私は、航空自衛隊が活動を円滑に行えるよう、地元住民のご理解を得るための業務を行っています。昨年は、米軍の航空機が日米共同訓練を行う際の地元自治体との連絡調整業務に携わりました。

仕事の魅力・やりがい

地方自治体や地元住民の方々と接する中で、航空機の騒音に対する切実なご意見や、自衛隊の活動に対する激励のお言葉をいただいています。基地対策業務に携わったことがなく、防衛施設の近くに住んだこともない私にとってはためになる経験でした。常に意識しなくてはならない地元とのつながりの大切さを実感できる点が、地方勤務のやりがいであり魅力です。

今後の目標や抱負

どの部署でも省内外の多方面との調整が必要であり、防衛行政全般についての幅広い知識が求められます。そのため、若いうちに様々な分野で業務の経験を積んでおくことが、将来の糧になると考えています。入省3年目になり、重い責任を伴う業務を任される機会が増えてきましたが、日々何かの学びを得られるよう精進していきたいです。

志望者への
メッセージ

私は採用説明会などで現役職員の話聞いて、自分の適性ややりたいこと、将来像などをじっくりと思い描きました。そして、防衛行政の中核で働きたいと考え、本省内部部局を志望するに至りました。

防衛省を志望する方は、安全保障に関心を持たれている方が多いことでしょう。しかし、いざ入省してみると、想像をはるかに超える業務の幅広さや奥深さに驚くと思います。地方勤務を含め、全ての業務が日本の安全を守る国防のために役立っており、どの仕事も自身の大事な糧となります。

様々な部署で様々な業務に携わりながら見識を深めることができるのが、この仕事の最大の魅力です。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。

様々な文書が
運用される現場で
実際に求められる
ものを感じて



現在の仕事内容

恒常的な業務では、事態における舞鶴地方隊の部隊運用に関する計画作成や、KS（日米共同統合演習）、JX（自衛隊統合演習）などの統合訓練の計画、当日の演習総括補佐を担当。防衛部の一員として初動対応にも携わっており、2025年1月6日の北朝鮮によるミサイル発射の際には、各所への通報や事態の経過概要の記録の作成などを行いました。

仕事の魅力・やりがい

「本省でやっていた仕事が現場でどのように運用されるのか」を経験できるのが地方勤務の魅力です。本省では国会答弁や法令など様々な文書の作成に携わりましたが、実際の運用イメージがついていませんでした。現在は部隊を動かす根拠として本省の文書を参照することが多く、本省での仕事が現場で噛み砕かれ、適用されていく過程を知ることができました。

今後の目標や抱負

昨年度までは、日米防衛協力や防衛産業など外向けの政策に携わる機会が多く、内向けの政策に対する解像度が低かったのですが、海上自衛隊の部隊で勤務したことで、「現場が求めるもの」が見えてきたように思います。今後は外向けの政策のみならず、自衛官の処遇改善など内向けの政策にも幅広く携われるようなオールラウンダーになりたいです。

志望者への
メッセージ

私が防衛省を志望したきっかけは、安倍元総理の「希望の同盟へ」という演説を聞き、日米安保に興味を持ったことからでした。大学では日米安保を含む防衛政策について学び、わが国の防衛政策が自国だけでなく世界の平和と安全にも寄与していることを知り、防衛省の理念と活躍できるフィールドの広さに惹かれました。

入省して早くも3年が経ちましたが、毎日のように防衛省に入って良かったと感じています。この国の独立と平和を守ることを仕事にできるのは防衛省だけであり、同じ志を持った仲間と共に働けることは人生の大きな財産だと思います。入省前に想像していたよりも風通しが良く、のびのびと働ける場所も防衛省の魅力です。

海外で多面的な視点を
得て、
戦略的な思考の土台を築く



大臣官房秘書課付
(英国グラスゴー大学留学中)
2019年入省



外交や安全保障政策の
実務家を養成する
大学院へ



大臣官房秘書課付
(米国ジョージタウン大学
外交政策大学院留学中)
2018年入省

「現地で学べる全てを吸収して、職務に生かしたい」

大学で日本の人口減少について学んだ際、「自分や社会全体が享受している豊かさは、将来にわたって保障されているものではない」と感じ、将来の社会や経済をどうやって持続可能なものにするかを考えなければならないと思うようになりました。わが国周辺の安全保障環境が厳しさを増す中で、人々の生活や安全を守るといった仕事を通して自分の問題意識と向き合っていきたいと思い、防衛省を志望しました。

現在、私はスコットランドのグラスゴー大学で国際安全保障論を専攻しています。入省後、業務でAIの軍事利用に係る議論に携わった際に、先例のない課題に対する政策を考えるには、深い知識の土台が必要であると実感したからです。

留学は、発見や驚きにあふれ、日本の安全保障や防衛政策を改めて考える契機にもなります。授業では様々な観点から安全保障について学んでいますが、世界中から集まった学生たちと議論をする機会が多く、様々な視点に触れる経験ができています。また、スコットランドは日本から遠く離れていますが、地域社会と英国軍との関係など、わが国の防衛政策への示唆を得られる地域でもあり、授業中だけでなく、外出先でも、現地にいるからこそその学びを数多く得られます。

防衛協力の制度作りを担当していた際、「戦略的な視点

を持って仕事を進める重要性」を学びました。古今東西の国際関係や紛争の事例に基づいて構築された理論を学ぶことは、戦略的思考をする上での出発点となります。留學生活で学んだことを将来の防衛政策につなげられるよう、研さんを続けていきたいと思っています。

職員からのメッセージ

業務範囲が幅広く、
個性や特技に合った仕事が見つかる

防衛省は国の安全を守るという目標に向けて仕事をしていますが、政策分野によって用いるツールや業務の進め方は異なります。私自身もじっくり制度を考える仕事から、一分一秒を争う対応が求められる仕事まで幅広く経験してきました。

あなたの個性や特技に合った仕事必ず見つかる職場だと思います。国防を担う一員として、一緒に働ける日を楽しみにしています。

「省内で勤務していた時には得られなかった視点」

大学では、国際コミュニケーションを専攻。大学院ではアメリカ政治学や国際関係学を学び、特に日米関係や安全保障に関心があったため、防衛省を志望しました。学生時代に留学した経験もあったので、米国や同志国との協力といった国際的な業務に携わりたいと思っていたことも志望理由のひとつです。説明会の際には職員の話聞く機会がありましたが、「私も防衛省の一員になって働きたい」と思いました。

現在、北朝鮮の核・ミサイルを巡る問題や中国の台頭、ロシアによるウクライナ侵略など、安全保障環境が厳しさを増しています。将来どのような政策を通じてこれらの難しい課題を解決できるのかを学びたいと考えて、留学を希望しました。

留学先は、米国ワシントンDCにあるジョージタウン大学の外交政策大学院(SFS)。1学期目は、必修科目である経済学と統計学、グローバリゼーション、国際関係論の授業を受講しました。SFSは実務家を養成することを目的としたプログラムで、外交や安全保障分野での実務経験が豊富な教授陣から外交や安全保障政策について学ぶことができる点が魅力です。教授陣や世界各国の留学生とのディスカッションを通じて、様々な視点を獲得ことができ、日々刺激を受けています。また、米国との同盟関係は安全保障の基軸であり、米国の外交・安全保障政策に

ついて理解を深めることは、今後の防衛省での業務に生かせるのではないかと考えています。

これまで装備政策や防衛政策、地方調整、国際政策などの業務に携わってきましたが、今後も様々な部署で経験を積んで、安全保障に貢献できる人材になりたいと思っています。また、留学で学んだ知識を生かし、日本や国際社会が直面する課題の解決に向けた効果的な防衛政策の企画・立案に携わりたいと考えています。

職員からのメッセージ

業務を通して日本や
国際社会の平和と安全に貢献

日々変化する厳しい安全保障環境の中で、防衛省の役割はますます重要になっていると感じています。防衛省のどの業務も日本や国際社会全体の平和と安全に貢献できるという点で、とてもやりがいがあると思います。皆さんと一緒に防衛省で働くことを楽しみにしています。

司令塔
外交・防衛・経済政策の
国家安全保障に関する



内閣官房 国家安全保障局
総括・調整班
2019年入省

現在の仕事内容

総括・調整班は局内の総合調整が主な所掌。NSC（国家安全保障会議）の開催事務も業務のひとつです。NSCは内閣総理大臣が議長となり、わが国の安全保障に関する重要事項を審議する場です。局内や関係省庁との綿密かつ迅速な調整・準備が必要で、総合調整力が鍛えられます。決して当たり前でない日常を「当たり前」にできるよう各々が国防に努めています。

仕事の魅力・やりがい

国家安全保障に関する政策の司令塔を担うため、官邸の考え方に接する機会が多いです。行政府として仕事を進める時、省内や関係省庁、議員など様々な側面から調整を進めていく必要があり、官邸が何に関心を持っているのか、各省とどう擦り合わせていくのか、こうした視点で業務に取り組むことができ、行政官としての貴重な財産になると感じています。

今後の目標や抱負

本省の一般職は国会業務、情報公開、文書管理、会計業務など数々の業務に携わり、それぞれに実施要領があります。行政官として不可欠な業務知識や経験を養いながら、高い専門性を実践的に身に付けていくことが大事だと考えています。また、現在、防衛省では幅広い業務で語学力が求められます。語学力を磨き、業務の幅も広げていきたいと思っています。

志望者への
メッセージ

2011年、リビアのカダフィ政権が崩壊していく様を見て、今なお紛争や内戦によって生命を脅かされる危機にある人々がいることを強く感じ、日本が平和と独立のうちにあることは当たり前ではないのだと身に染みました。

平穏な日常、自分の身近な大切な人たち、この国の未来、国際社会の安定。誰しも守りたいものがあると思います。国防の実力組織たる自衛隊を有し、安全保障の最前線を行く防衛省は、自らの手で己の大切なものを守りたいという思いに必ずや応えてくれることでしょう。時代の変化に伴い急増する防衛省の多様な、しかし一貫して安全保障に通ずる使命と達成感に満ちた業務が、志を同じくする皆さんをお待ちしています。

本省や地方での
幅広い実務経験が
成長につながり
キャリアの糧となる



係長級
内部部局
整備計画局サイバー整備課
2015年入省

○ 入省からのキャリア

- ▶ 係員級（本省・防衛装備庁） 2015～2017年
2015年4月入省。内部部局経理装備局装備政策課に配属され、調達制度を検討する部署に所属。10月、新設された防衛装備庁調達管理部調達企画課へ異動。2016年、内部部局大臣官房文書課情報公開・個人情報保護室に配属。情報公開制度を管理する部署で開示請求者への対応や室内業務の調整を行う。
- ▶ 係員級（地方） 2017～2020年
自衛隊兵庫地方協力本部に配属。予備自衛官等の人事管理を担当し、西日本豪雨では即応予備自衛官の災害派遣を実施。地方勤務にあたっては、地元である近畿への配属や妻の出産に伴って配属期間を延長するなど、個人の事情に合わせた人事が行われた。
- ▶ 係員級（本省）→主任→係長級 2020～2022年
2020年、内部部局地方協力局沖縄調整官（現：沖縄協力課）に配属。普天間飛行場の移設事業を担当する。
- ▶ 係長級 2022年～現在
2022年、内閣官房国家安全保障局に配属。安全保障政策の司令塔である国家安全保障局にて、国家安全保障戦略の策定や防衛装備移転三原則の改正等を担当。2024年、整備計画局サイバー整備課に配属。国家安全保障戦略で掲げられた「能動的サイバー防御」の実施に向け、関連法律の改正業務を担当。サイバー空間での平和と安全の確保を目指す。



今後への期待

次の異動でも、必要とされるポストに配属されると思いますので、そこで自分の能力を發揮したいと考えています。私はスペシャリストよりもゼネラリストを目指しているため、幅広く経験を積みたい。だから初めての業務であれば、なうれしいですね。もちろん、自分に与えられた職務に真摯に向き合い、責任をもって全うすることが最優先です。

志望者への
メッセージ

「戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境」である今、わが国の平和と安全を守るため、防衛省に求められる役割と責務は日々増大しています。当然、国民の注目も高まってく一方です。これほど重要で、やりがいのある仕事は他にありません。ぜひ防衛省で、共に働きましょう。

キャリアアップで感じた
自身の成長

役職が上がるにつれて、求められる業務の質も上がることになり、複雑な案件も増えていきます。そのため、時に厳しい状況になることもありますが、振り返ると当時の経験が今の自身の糧になっていると実感します。また人事についても、前職の知識や経験を生かせる異動が多かったため、異動先の業務にも早期に適応でき、新たな知識を吸収することができたと思います。

海外留学や他省庁への出向などもあり、
本人の意向や能力によって進むキャリアは多種多様



大臣官房秘書課
2005年入省
法学部

防衛省本省内部部局の
キャリアパスと
その目的について



国家一般職本省内部部局採用者は、入省2年目までに本省内部部局、防衛装備庁、統合幕僚監部において、1年に1ポスト、合計2ポストを経験します。この中で、総合調整業務に従事し、その部署が所掌する業務の全般に触れながら、業務の基本を身に付けることが目的です。

3年目の地方勤務においては、本省で立案された政策が地方でどのように実行されているのか、地方防衛局等の地方機関で現場を直接目で見て学ぶという目的があります。

4年目以降は本省に戻り、内部部局や防衛装備庁、統合幕僚監部や情報本部において概ね2～3年毎に異動し様々な業務に携わり、多くの経験を積んでいただくことになります。また、個人の意欲や能力、希望に応じて海外留学（6年目以降）や出向（4年目以降）の機会もあります。このような防衛省・自衛隊の外に視野を広げる機会を通じて、自身の興味のある分野を見つけていただき、自分の専門性を磨くことが可能です。



異動に不安を感じる
職員へのサポート

部署が違えば扱う業務内容もガラリと変わります。異動に対して不安を感じる方はいらっしゃると思いますが、逆に言えば、異動する度に新たな分野の業務に携わることができます。実際に職員からは「新たな分野で最新の知識を身に付けることができる」「どの分野も奥が深く、防衛省の仕事に飽きることがない」という声が多く聞かれます。

研修や勉強会に加え、前任者をはじめとする周囲のサポートなどを通じ、新しい分野の業務内容に慣れていきます。

キャリアアップで
求められるもの



入省直後は他職種の1年目職員や、先輩職員と共に総合調整業務を行います。同僚のほか、他部署や他省庁などと調整を行うことがメインになるので、コミュニケーション能力や協調性が求められます。

キャリアを積んでいく中で、自分が担当として携わる案件を動かす、ブラッシュアップするために、コミュニケーション能力に加え、折衝力や決断力、成果に対する責任感が重要になります。また自ら案件を進めていく積極性も求められます。

キャリアを積みながらコミュニケーション能力を磨き、
自ら案件を動かす積極性や責任感を養う

防衛省独自の
「部員制度」について



「部員制度」は防衛省独自のスタッフ制度であり、自分の担当する政策分野において広範な責任と権限を与えられ、自らのイニシアティブで政策の企画、立案を行うことが求められます。

志望者への
メッセージ

わが国を取り巻く安全保障環境が戦後最も厳しく複雑になる中、防衛省本省において政策立案に従事する、国家一般職本省内部部局採用の職員に求められる役割がますます広がっています。わが国の平和と安全を一層確かなものとし、現在、わが国が享受する当たり前の平和を、子どもや孫の次世代につなげていく。人生を懸けるに値する業務がここにあります。





09:30 ● **出勤、スケジュール確認**
前日に準備したTo doリストとメールを確認して、業務開始!新しい依頼も来るので、優先順位をしっかりと考えていきます。

10:00 ● **会議の準備・出席、議事録作成**
政務も出席する、省内の政策報告会議の準備をします。政務と自衛官、事務官が一体となって取り組む体制をサポートすることで省の取り組みに欠かせない役割を果たしていると実感します。

11:00 ● **上司との打ち合わせ**
国会業務に関わる資料について、上司に確認していただきます。若手からチャレンジできる環境で勉強になる上、上司に相談しやすい雰囲気があるので、安心して進められます。

12:00 ● **ランチタイム**
省内でも食事できますが、省周辺には中華料理や洋食、エスニックなどいろいろなお店があって飽きません。たまに同期や先輩・後輩とランチに行き気分転換と午後の仕事へのモチベーションにつなげています。

13:00 ● **他省庁からの依頼に対応**
とある省庁から、防衛省政務への会議出席依頼が来ました。高官への説明資料を準備し、省としての対応をどうするか決裁を進めます。ニュースにも取り上げられる重要施策に携わり、政府の取り組みの一翼を担えることで、充実感を得られます。

15:00 ● **他課からの問い合わせに回答**
文書課には省内各課や各機関から様々な問い合わせがあるため、案件の動向にアンテナを張り、適切に回答できるよう研さんしています。

16:00 ● **国会対応に関する資料提供**
上司と相談しながら対応します。防衛省の公式見解として回答するもので、政策を進める上で必要不可欠なもの。緊張感を持って、迅速かつ誤りがないように対応することが大切です。

20:00 ● **退庁**
急な国会対応が長引いたため、少し残業をしました。翌日のTo do リストをまとめてから退庁します。



文書課の業務とは

行政文書に関する部署と思われがちですが、実は国会との連絡調整を行いながら、防衛省の屋台骨を担う課です。私は総合調整担当として国会対応や他課との調整を行いつつ、他省庁からの依頼や省内のあらゆる案件を取りまとめて総合調整する役割を果たしています。

意識していること

文書課の決定は、省内各課ひいては省外にも影響を及ぼすことがあります。そのため「様々な情報を集めながら、迅速にかつ理解しやすい」指示や相談をするように心がけています。また、どんな時も落ち着いて、次にすべきことを考えることも意識しています。

休暇の過ごし方

月曜日や金曜日に休暇を取得して、3連休で趣味の旅行やごはん屋さん巡りをしています。昨年も国内・海外共に旅行に行き、リフレッシュすることができました。職場の同期や先輩と近場に遊びに行くこともあり、忙しい中でも充実した週末を過ごしています。

女性の活躍のさらなる推進



育児・介護をしながら活躍できるための環境整備

職員が育児・介護などと仕事を両立させるため、任期付の職員を採用し、育児休暇などを取得する職員のための代替要員を確保するなど、様々な制度を整備しています。特に男性職員の育児休業などの取得促進に取り組んでおり、子どもが生まれた全ての男性職員が、1ヶ月以上を目途に、育児に伴う休暇・休業を取得できることを目指しています。

また、育児や介護に関する制度の説明、ロールモデルの紹介、管理職員や人事担当部局がきめ細かく職員の育児に関わる状況を把握するための「育児シート」を作成するなど、職業生活と家庭生活を両立しやすい環境整備を進めています。なお、育児・介護により中途退職した自衛官を、再度採用できる制度もあります。

保育の場の確保に関しては、全国8ヶ所の駐屯地などに庁内託児施設を整備。また、災害派遣などの迅速な対応を求められる場面において、自衛隊の駐屯地などで隊員の子どもを一時的に預かる「緊急登庁支援」の施策を推進しています。

働き方改革

働き方改革においては、特に管理職員などの「働き方に対する価値観や意識の改革」が必要です。そこでトップからメッセージを発出し、セミナーや講演会を行うなど、働き方改革やワークライフバランスに関する意識啓発に努めています。また、育児や介護などで時間や移動に制約がある隊員が増えていく中、全ての隊員が能力を発揮して活躍できるよう、長時間労働の是正や休暇取得の促進などにも取り組んでいます。

職場の実情に合わせ、職員が職場環境の改善策を考えることが実効性ある取り組みにつながるという思いから「防衛省における働き方改革推進のための取組コンテスト」を実施。特に優れた取り組みは表彰および防衛省内に紹介しています。また、業務の繁忙や育児など個人の抱える時間制約の事情を踏まえ、早出遅出勤務やフレックスタイムを導入し、全ての職員が柔軟で多様な勤務を可能としています。



取り組みや制度の紹介

両立支援ハンドブックの発行:全ての職員が、柔軟で多様な勤務を可能とするため、ワークライフバランスに関する様々な制度を紹介しています。

キッズバオ防衛省市ヶ谷保育園:防衛省(新宿区市ヶ谷)にある事業所内保育所です。防衛省内の子どもたちの秘密基地に毎日お散歩。省内で働くお母さん、お父さんとすれ違ってハイタッチ!は事業所内保育所ならではの。緑豊かな省内の環境で子どもたちは過ごしています。

若手職員に聞いてみた

業務に達成感がありますか？

今回のパンフレットを作成するにあたり、若手職員の皆さんに緊急アンケート。
以下の設問から回答をもらった。主な回答をピックアップして紹介します。

こんなことを聞いてみた

業務への達成感と満足／仕事のスケールの大きさを実感する時／社会に貢献している実感／新しいことを学び、成長する機会／5年後、10年後の具体的なキャリアビジョン／職場の人間関係／ワークライフバランス／休日と福利厚生／今後もこの職場で働き続ける？



キャリアプラン

入省して最初の2年は1年ごとに異動だったため、異なる分野について短期間で多くのことを学ぶ機会を得られました。メンター制度など同職種の先輩と関わりを持つ機会も多くあるため、キャリアプランを立てやすいと思います。

男性：整備計画局防衛計画課
2023年入省

今後も働き続ける

国防を担う唯一の職場であり、今後も働き続けると思います。職場環境としては今まさに改善の途上にあるところですが、日々進捗していて今後に期待できる状況であり、また自分自身も貢献していきたいと考えています。

女性：防衛装備庁プロジェクト管理部事業監理官（航空機担当）付
2023年入省



10年後

以下のいずれかを達成したい。
①防衛省の留学制度を利用し、米国の大学院に留学をしている。
②グローバル戦闘航空プログラム（GCAP）政府間機関（GIGO）に派遣され、GCAPの進展を現地から支えている。

女性：防衛政策局国際政策課
2024年入省

仕事のスケール

自分が打ち込んだ文字が、対外公表資料となりHPや報道等で取り上げられると業務のスケール感の大きさを感ずる。資料の作り方、説明の仕方、仕事に臨む考え方を、日々先輩職員の姿を見て学べるのはとても自己の成長につながっていると感じている。

男性：人事教育局人事計画・補任課
2024年入省



成長する機会

現在の業務は、中央で決定された政策を、実際に自衛隊が適切に実行できるよう、地元の方にご理解をいただくべく調整を行うものです。今までの業務とは全く異なり、わからないことや難しいことも多いですが、地元の方にご理解をいただいた際には達成感を感じます。

女性：中国四国防衛局企画部地方調整課
2022年入省

達成感と満足

自らが担当する業務や、所属する部署の大きな事業を無事に成し遂げることができた際は、安堵すると共に喜びを感じる。難しい調整も多いが、日々様々なことを勉強し、与えられた職責を全うできるよう頑張っている。

男性：沖縄防衛局企画部地方協力確保課
2022年入省

成長する機会

防衛省の業務に触れる中、日々のニュースで流れる国際情勢の見え方が変わりました。また「こんな世界があったのか!」と刺激になることも多く、成長の機会に恵まれていると思います。業務外でも役職を問わずフランクに雑談できる雰囲気があります。

男性：防衛政策局防衛政策課
2024年入省

社会貢献

安保環境の厳しさを物語る出来事が日々報道されていますが、そのような環境下で日本の平和維持に貢献できていることを実感し、実際に防衛省で勤務してみても、防衛行政の幅広さと奥深さを日々実感しております。

男性：九州防衛局企画部地方調整課
2022年入省

休日

昨年度（入省2年目）結婚式を挙げたのですが、その際に結婚休暇を取得しました。式に向けての準備は大変でしたが、まとまった休暇がとれたおかげで、無事に結婚式を執り行うことができました。

男性：北関東防衛局企画部地方調整課環境対策室
2022年入省

達成感とスケールの大きさ

1年目から担当業務を持つことができ、白書の執筆や、国会の想定作成など、スケールの大きな仕事に携わることができ、非常にやりがいを感じている。

男性：防衛政策局調査課
2024年入省

社会貢献

自治体との会議の際に、「自衛隊にはいつも感謝している」とのお言葉をいただきました。特に人口の減少している地域では現地に駐在する自衛隊がコミュニティを支えている場合があり、地域に根差しています。自身の業務を通じて自衛隊の役に立てることにやりがいを感じています。

女性：九州防衛局企画部地方調整課
2022年入省



令和5、6年度 入省者からの メッセージ

理想の安全環境をつくり出し、日本の平和と独立を守り抜く役割を担っている防衛省。国家の最後の砦として、日本に住む全ての国民、国家を守るという志のもと、多くの職員たちが日々、唯一無二の仕事に取り組んでいます。

確固たる目的を持った大きな組織で汗を流し、日々感じている「防衛省の魅力」を語ったのは、令和5年、6年度に入省した「若手」と呼ばれる職員たちです。防衛省を志望したきっかけや仕事のやりがい、職場の環境などを紹介したメッセージには、「皆さんと一緒に働きたい」という熱い想いが込められています。



防衛政策局 運用政策課 / 2024年入省 法学部法学科

自衛隊に関心を持ったきっかけは小説でした。実際にイベントや広報館へ足を運び、自衛官の大変さや重要性を感じて、活動を支える仕事に就きたいと思うようになりました。

所属する運用政策課では、在外邦人等輸送や災害派遣をはじめとした部隊運用の制度面の企画・立案をしており、幅広く自衛隊の運用に関する仕事に関わっています。入省前は縦社会の厳しいイメージでしたが、実際は上司や先輩へ相談もしやすく、想像より開放的な雰囲気です。また、業務の量や残業の負担が偏らないように上司が声をかけてくださり、テレワークや時間休などを活用されている方も多く、休暇等も取得しやすいです。

一般職内部部局採用は1年目から政策の中核に近い場所で働くことができ、幅広い経験を積むことができる学びのある職場です。皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



人事教育局 人事計画・補任課 / 2024年入省 法学部法律学科

中学校卒業後、陸上自衛隊高等工科学校へ進学。厳しい安全保障環境を乗り越えるには防衛力の中核である隊員の存在が大切だと感じ、人的基盤の強化に制度面から携わりたいと思いました。

私が所属する人事計画・補任課は、防衛力の中核たる人材の確保のため、制度拡充や生活・勤務環境の改善等の取り組みをしています。今政府は人的基盤の強化に力を入れており、多忙な日が多くありませんが、風通しが良く一体感が強い職場なので上司や同僚にいつでも相談しやすく、的確なアドバイスがもらえます。

戦後最も厳しく複雑な安全保障環境において、「当たり前を守る」という仕事は簡単ではありません。しかしその仕事は唯一無二です。就活では数ある選択肢の中からひとつの答えを導き出さなければなりません。防衛省はその選択肢になりえると確信しています。



整備計画局 防衛計画課 / 2023年入省 国際政治経済学部国際政治学科

私が所属する防衛計画課は、真に実効的な防衛力の構築に向け、必要な装備品や部隊配備を検討し、目に見える形に落とし込んでいく「防衛力整備」が中核業務です。課員は「防衛力の抜本的な強化」という目標に向けて、日々熱心に働いています。

「わが国の平和と安全を守る」。我々の仕事の先には常にその目標があります。こうした職務に一生を捧げたいという志を持つ皆さんにとって、防衛省は最良の選択肢であると確信しています。



防衛政策局 運用基盤課 / 2023年入省 法学部法律学科

学生時代、国際情勢が緊迫する中で日本をどのように守るのか、その道筋・戦略を考え実行していきたいと思ったのが志望理由です。

防衛省は若手の頃から防衛政策立案に関わることができる他、研修制度や休暇制度が充実。また、職種や年次に関係なくフラットに話せる環境も魅力です。

防衛省は組織が大きいので様々な人と関わり合い、幅広い業務が体験できます。皆さんが防衛省を選んでくれることを願っています。



防衛政策局 国際政策課 / 2023年入省 教育学部教育科学科

大学時に東日本大震災の被災地を訪れ、当たり前だと思っていた日常を守ることに貢献したいと考え、防衛省を志望しました。

入省後は「安全保障」というフィールドの幅の広さを感じています。同期だけでもミサイル対応、新領域(サイバー・宇宙・電磁波)への対応、災害派遣、装備移転、基地負担軽減など、多様な業務に従事する職員がいます。一部署で完結する業務は少なく、それらを所掌する部署との関わりが頻繁にあり勉強の毎日ですが、安全保障の知識・仕組みを日々身近に知ることができることもこの職場の魅力です。

前述の通り、防衛省の職務は幅広いですが、そのどれもが「国の防衛」に関するものであり、意義・やりがいを感じながら働くことができる職場だと感じています。



防衛政策局 調査課 2024年入省 法学部法律学科

私が入省して感じたのは、常に変化を続ける組織の柔軟性です。入省して1年も満たない間に様々な業務改革やオフィス改革等が行われています。また、所属する調査課戦略情報分析室では、北朝鮮のミサイル発射対応など突発的な業務が発生するため、室内全員がメリハリのある働き方を実践。室内の雰囲気はとてもアットホームです。

現在、日本の置かれた安全保障環境は厳しさを増し複雑化する中で、防衛省の仕事のスケールは大きくなっています。皆さんが培ってきた知識や経験を生かす場は防衛省のような大きな組織に必ずあると思います。本人の希望ややる気、能力次第で若手のうちから多くの業務を任せられるという点も魅力です。



初心を忘れず

成長し続けたいという想いに共感できる方へ

本省内部部局は、どのように採用にあたっているのだろうか。
採用後はどのような研修が予定されているのだろうか。



PROFILE

2019年に入省。大臣官房秘書課で勤務。
学生時代の専攻は言語文化学部。



Q. 採用予定の人数を教えてください。

A. その年によって変わりますが、20名程度を予定しています。

Q. オンラインによる業務説明会があると伺っていますが、その頻度と内容を教えてください。

A. 各種業務説明会は月に3回程度実施しています。

業務説明会では、本省内部部局一般職採用職員の概要説明と質疑対応を、少人数懇談会では、採用担当者より細やかで具体的な質疑応答ができる場を設けています。その他、若手職員との懇談会、内部部局一般職採用の先輩職員による政策説明会も実施しております。

また、月に1回程度、防衛省本省にて対面説明会を実施しており、職場や職員の雰囲気を感じることができる機会として、好評いただいています。

Q. 本省内部部局に求められる人材とは

A. 主体的に学び、「この国を守りたい」という目標のために自立的に行動し、組織内外での様々な経験を通し、行政官として、一人の人間として、成長し続けたいという想いに共感される方を本省内部部局の人材として求めています。

Q. 入省後の研修について、それぞれの内容と狙いを教えてください。

A. 防衛省では、入省後に様々な種類の研修が用意されています。

例えば、入省直後は、日本の防衛に関する基礎的知識を習得し、社会人としての基礎を身に付けるための初任研修に参加頂く予定です。

勤務開始後も、職務を通じた知識及び技能の習得のみならず、職場を離れて各職位に必要な知識及び技能を習得するための研修があり、職種を越えて同期等との絆を深めることができます。

この他、専門研修として、1年目に英語研修があります。業務時間内に2時間×週2回×3ヶ月程度のオンライン英語研修を受講します。2年目以降も希望する場合は受講が可能です。

また、自衛隊の部隊を知るため、1年目には1泊2日

の部隊研修も実施しています。自衛隊の施設に行き、自衛官の実際の訓練を体験し、自衛隊への理解を深めることができます。（※研修内容は今後変更になる可能性があります）



入省後の初任研修から 業務時間内にオンライン英語研修も

Q. 最後に、本省内部部局一般職員を志望される方へのメッセージをお願いします。

A. パンフレットを手にとっていただき、ありがとうございます。

ご覧のとおり、防衛省・自衛隊は、様々なキャリアを持つ多種多様な人材が集まった巨大な組織です。もしかしたら、定年まで働いても、この組織の全てを知ることは難しいかもしれません。

組織が大きければ大きいほど内部の連帯感は薄まってい、通常はそのようなイメージが湧くでしょう。しかし、防衛省・自衛隊はそうではありません。ここで働いている約25万人は、皆、「この国を守りたい」という誠実かつ明確な想いでつながっている仲間です。その中でも、本省内部部局一般職は、防衛行政全体の司令塔となる市ヶ谷で、防衛政策の企画・立案を通して「この国を守りたい」という想いを体現する仲間が集う採用区分です。

ここまで読んでくださったことも何かのご縁です。仲間としてお会いできる未来を楽しみにしています。

